SDGs新聞	日本調剤株式会社
余った薬をムダにしないために	

SDGsラジオを読んでみよう！

風邪をひいた時にもらう薬。
治りかけの時には、飲み忘れてしまうことってありませんか？
じつは、薬は余ってしまうことが多くて、日本中から飲み残した薬を集めてお金にすれば、
年間で約500億円分にもなると言われています。
また、古くなった薬を飲むと、身体に悪い影響が出ることもあります。
そこで、全国のさまざまな地域で薬局を運営している日本調剤では、「余った薬を整理するサービス」に取り組んでいます。
余った薬を日本調剤の薬局に持っていくと、薬剤師さんが、薬の状態や数をチェックして整理してくれたり、
お医者さんに連絡をして、次に薬をもらう時に調整してくれるんですよ。
これにより、薬がムダにならず、さらに薬代がおトクに。古くなった薬を飲む心配もなくなります。
薬も食べ物や水と同じように、ムダにしてはいけません。おうちに帰ったら、余っている薬はないか？確認してみてくださいね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：「残薬」イメージ画像（日本調剤公式HPより）

医師から処方された薬のうち、飲み残しや飲み忘れなどによって、残ってしまった薬のことを「残薬」といいます。例えば、治療に長い時間のかかる病気のため、定期的に受診しているような場合、受診のたびごとに、前に処方してもらった薬がどんどんたまっていくことになります。古い薬を飲むことは身体にも良くないですし、効き目も悪くなっていきます。この残薬は社会問題のひとつとなっており、厚生労働省の資料によれば、残薬の量をお金に換算すると、年間で約500億円にものぼるといわれています。

画像参照：薬剤師による残薬調整額（日本調剤公式HPより）

そこで、全国で薬局を運営している日本調剤では、「残薬を整理するサービス（残薬調整）」に取り組んでいます。患者さんが残薬を薬局に持っていくと、薬剤師が薬の状態や数を確認し、処方する日数を調整するよう医師に連絡したり、次回受診の際に患者さんから直接医師に残薬を伝えられるメモを作ることもできます。また逆に、薬剤師から患者さんに残薬がないかを聞いて、渡す薬の量を減らしたり、薬の種類を変えることもあります。これらの取り組みにより日本調剤の薬局全体で、1年間で約2億2465万円の薬代を調整することができました。

キーワード

処方

医師が患者さんの病状に応じて、薬の調合や飲み方などを薬剤師に指示することをいい、
それが書かれた紙のことを「処方せん」といいます。

厚生労働省

病気予防、食品の安全、働く環境づくりなど、国民の生活をより良くするための、国の機関のひとつです。

薬剤師

病院や薬局で、患者さんに薬を渡したり、飲み方の説明などをすることができる資格を持った人のことです。

対象ゴール

みなさんにできること！	
残薬の問題点について理解し、家庭でも話し合ってみましょう。	
おさらい	● 日本国内では、年間に約500億円分もの残薬が発生している。 ● 日本調剤では、残薬を減らす「残薬調整」に、積極的に取り組んでいる。 ● 残薬調整により、1年間で約2億2465万円の薬代を調整することができた。

メモ

SDGs ラジオ